

巻 頭 言

藤巻裕蔵

2001年11月22～25日に新潟市で開催された第2回ラムサールシンポジウム新潟に出席しました。これは、1996年に新潟市の佐潟がラムサール条約の登録湿地に指定されたのを機に、第1回のシンポジウムが開催されたのを引き継ぐものです。

今回のシンポジウムの趣旨・目的は、越後平野の湖沼群とそれらの地域に飛来する水鳥類の保護・保全活動やトキの保護活動など国内外の活動事例を報告し、「湿地の賢明な利用」について多くの人々が学び、交流することにあります。

こシンポジウムのセッションに「ハクチョウ」がありました。報告は5題ありましたが、それらの中で多くの参加者の注目を集めたのは、「餌付け」の問題です。餌付けには、瓢湖の場合のように評価されている例もありますが、最近の各地の状況を見ていると、必ずしもすべてが肯定的に見られていない場合もあります。この点については、私は本誌25号に「餌付けを考える」として問題提起をしたところです。

最近の水鳥類の保護は、ある特定の場所における餌付けなどの活動だけではなく、繁殖地、渡り中継地、越冬地を結ぶネットワークを構築し、生息環境の保全を中心に保護を進めていこうという方向にあります。第26回の研修会を開催した湖北地方でも餌付けではなく、ヨシ原や水草の生える浅瀬の保全や内湖の回復など環境改善に力を入れていました。また水域・水辺環境における保護の対象も、ハクチョウ類だけではなく、ガン・カモ類、シギ・チドリ類、ツル類などと範囲も広がっています。

私たち日本白鳥の会も、これまでと同様の会独自の活動を続けるとともに、上述のような世界的・全国的な動きの中で、他のNGO・市民から行政にいたる多くの人々と歩調をあわせて進んでいこうではありませんか。